

マイタウン・バス北部線のアンケート結果および今後の運行について

1 目的

マイタウン・バス北部線の利用促進を図るため、利用者や地域住民に対しアンケート調査を実施した。

2 調査概要

(1) 対象者

北部地域（金足・下新城・上新城地区）の路線沿線に居住する市民の中から、無作為に抽出した1,100世帯を対象とした。

(2) 調査期間

平成25年8月28日～同9月10日

(3) 配布・回収状況

配布数 (世帯数)	回収数 (世帯数)	回収率 (世帯ベース)	回収枚数 (個人数)
1,100	531	48%	819

3 主要調査結果と対応方針（3地区集計）

(1) 認知度：81%（知っている）・・・問2

知っているにも関わらず利用されていないため、更なるPRに努め周知していく必要がある。

(2) 利用の有無：16%（利用あり）・・・問3

自家用車（送迎あり含む）の利用率が79%（問4から）と高く、利用していない人が84%存在する。利用率の低下を抑止し、マイタウン・バスを維持していくための方策が必要となる。

→ 路線図・時刻表を各戸に配布する。（時刻改正時も同様とする。）

- ・PRポスターを作成し、公共施設等に掲示し周知する。
- ・高齢化社会に対応するため、自家用車から公共交通へ転換する意識改革の啓発。

(3) 目的別利用者：①通勤・通学、②買物、③通院・面会（目的別順位）・・・問5

→ 利用率の低い便を廃止するなど、目的に適したダイヤの再編を実施する。

(4) 利便性向上策・・・問7

便利になっても利用しない27%、定時定路19%、予約簡素化14%、ルート増・フリー乗降13% 定時定路が高いため、検討が必要となる。

→ 現状の便数を確保し定時定路とする場合は、費用で約2,700万円かかり増しとなるが、費用対効果および便利になっても利用しないという回答が大半を占める中での追加投資は困難である。しかし、予約の簡素化やルートおよびフリー乗降については、検討する。

(5) 運行内容の満足度・・・問12

便数・ルート・運賃・バス停までの距離については、半数以上が良いと回答している

が、バスへの乗り継ぎ時間が長いと答えた人が41%存在するため、ダイヤの検討が必要となる。

→・路線バス事業者との連携体制を強化し、最適な乗り継ぎ時間となるよう適確にダイヤの改正を実施する。

(6) 利用方法・・・問14

予約の必要性および煩雑さで、半数以上が欠点としてあげている。

→・定時定路運行が困難なことから、予約式運行を継続することになるが、予約の方法やオペレーターの対応も含め、運行事業者に対し予約しやすい環境作りを徹底し、利便性の向上を図る。(一度利用すると、電話番号が予約センターに登録されるため、次からの予約の手続きが簡素化されます。)

4 今後の方針

- ・アンケート結果から、マイタウン・バス北部線の運行については、現状どおり予約式で運行する。
- ・利用促進を図るため、更なるPRの実施と運行協議会による利用しやすいダイヤの設定、利用者の利便性に配慮したフリー乗降やバス停留所の設置、運行事業者の研修等、サービスの充実を図る。